

## なんだ・かんだ

### ◆ 落雷 ◆

今年は台風の発生が異常に多い夏です。そして、台風が上陸しなくても前線を刺激して局地的なゲリラ豪雨が発生し、それに伴い各地で落雷も多発しています。ゲリラ豪雨は、川が氾濫したり、山が崩れたり大きな災害が付いて回りますが、同じくらい恐ろしいのが落雷です。今年の4月にはインドの南東部の州で、わずか13時間で3万6749回もの落雷が観測され、9人の方が亡くなっているそうです。

実は私も先日雷で怖い目にありました。お盆休みに子供たちと山中湖の日帰り温泉に行ったのですが、露天風呂に入浴中に雨が降り出しその後雷鳴が轟き始めました。雷が光ってから音がするまでの時間を計って、音は秒速だいたい350m程度だから・・・と話をしていたら、それまで10秒以上かかっていたのが、稲光が光ったと思ったら即雷鳴。その音もすぐ近くに落ちたような文字通り大地を揺らすほどになってきたので、恐ろしくなり内湯に逃げ込みました。

大変怖い目にあつたので、帰ってから気象庁HP等で雷について調べてみて、本当に危なかったのだと改めてぞっとしました。以下、落雷について調べたものです。

雷は、雷雲の位置次第で、海面、平野、山岳などところを選ばずに落ち、近くに高いものがあると、これを通して落ちる傾向がある。グランドやゴルフ場、屋外プール、堤防や砂浜、海上などの開けた場所や、山頂や尾根などの高いところなどでは、人に落雷しやすくなるので、できるだけ早く安全な空間に避難する。

落雷による死亡事故で1番多いのは「開けた平地で雷の直撃」、2番目が「木の下での雨宿りでの落雷」で、この2つが全落雷事故死の半数以上を占めるのだそうです。

鉄筋コンクリート建築、自動車、バス、列車の内部は比較的 안전한空間だが、全ての電気器具、天井・壁から1m以上離れれば更に安全。また、水道管や排水管などの金属管などを伝わり、雷の高電圧が屋内に侵入する恐れがあるので、落雷時には、入浴なども避けた方がより安全。

近くに安全な空間が無い場合は、電柱、煙突、鉄塔、建築物などの高い物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から4m以上離れたところに退避する。更に高い木の近くは危険なので、最低でも木の全ての幹、枝、葉から2m以上は離れ、姿勢を低くして、持ち物は体より高く突き出さないようにする。

その他、○雷雨のときに傘をさすのは大変危険 ○自転車・オートバイは危険 ○「ピカッ」と光ってから「ゴロゴロ」鳴る間隔が長いからといって安全ではない ○木陰や建物の軒下は危ない ○ゴム製品を身にまともダメ ○金属のアクセサリを外しても意味がない 等々  
我々は山中湖の温泉では屋根のある露天風呂、つまりあずま屋にずっといたのですが、あずま屋には避雷針もないし、あたりは水だらけ。高い木が林立する林の中の露天風呂だったので、後から考えて最悪の条件だったのだとぞっとしました。

その日のニュースで東京の昭和記念公園のプールでは落雷の間プールへの侵入を禁止していましたが、温泉の露天風呂でも同様の処置が必要だと思いました。本当に怖い思いをしました。



### 景気好調

お盆が明け17・18日と台風に囲まれた状況で久しぶりの涼風が吹き、汗にまみれて目を覚ますことなく熟睡が出来ました。しかしその後暑さはぶり返し、台風も多発。19号20号はアベックで上陸してきました。こんな夏は初めてです。

さて、8月6日の日経新聞に、日本政策投資銀行（DBJ）が資本金1億円以上の中堅企業から大企業を対象とし、約5100社から回答を得た2018年度の設備投資計画調査が発表され、全国10地域すべてが増加を見込みました。増加は7年連続で、全地域がプラスなのは4年ぶりということ。このほか内閣府の景気ウオッチャー調査でもすべての地域で改善がみられるなど、地方経済の景況感の改善を示す指標は増えているということです。また、上場企業の4～6月第一四半期の業績は好調で2年連続の最高益、通期でも増益が視野にはいつているということ。アメリカ発の貿易摩擦という爆弾を抱えながらも、これは世界的な傾向だそう。

このまま行けるところまで突っ走りたい。取りあえず来年3月まで止まらずに駆け抜けろ！

代表取締役 服部 徹 郎

## 社員ブログ

### ● 夏の醍醐味 ●

総務部 荻野 容子

毎年しゃぎりの音が聞こえてくると、「あっ！夏だなあ」と感じる私。今年ももうすぐ始まる三島大祭り。(注：本通信発行時には三島大祭りは終わっています)

山車の上で繰り広げられる伝統のしゃぎりや火の粉が乱舞する手筒火花。毎年芸能人が源義経に扮して行列に参加する熱気が伝わるパレードの数々も見逃せない。

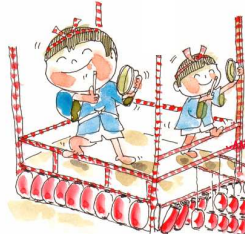
そして今年は6年に1度の当番町の年で、いつも以上に子どもも大人も気合いを入れて猛練習中。

三島の伝統芸能の”しゃぎり”  
地元で育ち、私も小さい頃から慣れ親しんできて、今ではわが子達も夢になっています！

我が家の共通の娯楽です(笑)  
親子で共通の事を楽しめるのはうれしいですね。

しゃぎりは、子供から大人まで世代を超えて取り組める魅力があってひとつになる！みんなで体感する！醍醐味があり、又、いい汗がかけます！

本番も、猛暑に負けずに、みんなで、親子で、いったいになって楽しむつもりです♪



本レターのご提供に付きまして、ご不要・ご迷惑という方に付きましては、その旨ご一報頂きたいと思っております。次回からの発送を中止させていただきます。

### ■ 安全帯から墜落制止用器具へ ■

高所作業時に使用されている安全帯が、2019年2月1日より名称が「墜落制止用器具」に改められ、一部高さが6.75m以下で「胴ベルト型(一本つり)」を使用できますが、それ以外の高所作業においては「フルハーネス型」を使用することが原則となります。また、同器具を使用すべき高所作業に従事する者は「安全衛生特別教育」が必要となります。

ただし、法律改正の完全施工には猶予期間が3年弱あり、現行の安全帯でも2022年1月1日まで使用可能です。

とはいえ作業者の安全も考えて早めの移行が望まれます。

株式会社チキリ

静岡県駿東郡清水町卸団地73

Tel 055-971-9610 Fax 055-973-1534

E-mail gen@chikiri.com URL http://www.chikiri.com/